

漂着したココヤシの果実に付着していたハナヤサイサンゴ

中西 弘樹¹

Cauliflower Coral, *Pocillopora damicornis* attached to drift coconut

Hiroki NAKANISHI¹

漂流物には自然物，人工物を問わずエボシガイをはじめ，いろいろな海産動物が付着し，漂流物と共に海岸に打ち上げられている（石井 1990；中西 1990など）。ココヤシの果実にもしばしばエボシガイやフジツボの仲間が付着していることがあるが，サンゴの仲間が付着していたので，記録しておきたい。海産動物の同定をしていただいた長崎県食品検査センターの深川源太郎氏にお礼を申し上げます。

2009年2月1日，長崎県五島市玉之浦町頓泊の海岸に漂着していたココヤシの果実に，いくつかの付着海産動物と共に，見慣れないサンゴらしきものが付着していたので，持ち帰って調べた。その結果，ハナヤサイサンゴ科（Pocillopodae）のハナヤサイサンゴ *Pocillopora damicornis* Linnaeus, 1758であることがわかった。付着していたハナヤサイサンゴの大きさは約5 cm × 4 cmの楕円形で，中央の最も盛り上がった部分は厚さ約1.5cmであった（Fig. 1）。表面はほぼ乳白色で，凹凸が著しい。このように大き

なハナヤサイサンゴがココヤシに付着していることは珍しく，かなり長期間にわたって熱帯の海域に漂い，その後日本に漂流してきたと思われる。

ココヤシの果実の大きさは，長さ約21cm，幅約16cmのふつうサイズのもので，外果皮は上部を除いて消失し，繊維質の中果皮が露出していた。果実の上部はやや3面体をなし，ハナヤサイサンゴはその1面の中央に付着していた。他の1面には1個のエボシガイ *Lepas anatifera* の成体と直径5～10mmの小さなハナヤサイサンゴが付着しており，3面とも数mm以下のエボシガイの幼体が多く付着しており，果実のあちこちに削孔性のカモメガイモドキ *Martesia striata* が中果皮に棲んでいた。

引用文献

- 石井 忠 1990. 漂着物事典. 380+11pp. 海鳥社，福岡。
中西弘樹 1990. 漂着物学入門－黒潮のメッセージを読む. 211pp. 平凡社，東京。

(Received July 7, 2014; accepted Aug. 25, 2014)



Fig.1 *Pocillopora damicornis* attached to drift coconut.

¹ 〒851-2130 長崎県西彼杵郡長与町まなび野2丁目29-4 亜熱帯植物研究所

¹ Subtropical Botanical Institute, 2-29-4, Manabino, Nagayo-cho, Nishisonogi-gun, Nagasaki 851-2130, Japan